

■ ご挨拶

理事就任のご挨拶



日本風力発電協会 理事 庄田 邦彦
エコ・パワー株式会社 取締役

はじめに

今回で理事四期目を務めさせていただくことになりました庄田邦彦です。縁あって社会人になって以来一貫してエネルギー業界に身を置いてまいりましたが、今年はエコ・パワー社で協会理事に同じ四回目の夏を迎えたところです。

昨年後半から本格化した(リプレースを含めた)買取価格の段階的な引き下げ議論、或いは系統制約顕在化に伴う電源接続募集プロセスの始まり等、業界環境の変化スピードが従前に比して格段に増したことを実感させられる出来事が矢継ぎ早に起こりました。

そして今現在、FIT 導入来業界に吹いていた追い風が変調を来し始めてからここまでの間、協会として一步でも二歩でも先回りをした十分な対応がとれたのかどうかを自問してみると、残念ながら幾つかの局面において後手に回ってしまった点があったと率直に自省しているところです。

エコ・パワー社員として感じたこと

エコ・パワー社は今年7月で創立20周年を迎えることができました。会社が設立された1997年は、京都でCOP3が開催され国際社会が『温暖化防止』という地球規模の課題に初めて取り組んだ画期をなした年でした。

そして一昨年前の2015年にCOP21で採択されたパリ協定では、国際社会が今世紀半ばまでに『脱炭素社会』を目指すことを宣言し、日本政府も2030年に温室効果ガスを13年比26%削減することを謳っています。

足元の国内再生可能エネルギーの導入促進

策はやや足踏み状態に陥った観がありますが、国際社会の中での日本国の立ち位置で眺めてみると、風力発電に対する再生可能エネルギー拡大のけん引役としての期待は今後増えることこそあれ減じることは決してないといえるでしょう。

我々はそうした期待に応えられる潜在力を間違いなく有しており、大いにその期待に応えていかなければなりません。

おわりに

電力システム改革という大きな枠組みの変革の最中であって、現在進行形で進められている様々な制度変更の機会を、業界としてネガティブの受け止めるのではなく逆に風力発電が有している潜在力を引き出すための絶好の機会と捉えるべきでしょう。

協会の一員として目標達成に向け関係する皆様方と一緒に活動してまいりますので本年もよろしくお願いたします。